

## 第5代九州地方会会長挨拶

### 九州地方会創立30周年を祝して

九州大学 名誉教授 中 田 稔  
(第5代会長 平成10年4月～平成12年3月)



このたび日本小児歯科学会九州地方会が創立30周年を迎えられるとのこと、創立に向けて、当時関わった者のひとりとして感慨深いものがあります。小児歯科医療には地域的な配慮が必須であり、そのために、地域ごとに地方会を設立しようとの全国的な動きの中で、割と小児歯科専門医の多かった（現在の時点でも多いと思っていますが）九州地区には、大学外にも小児歯科に積極的で、優秀な人材が集中しておりました。そこで、地方会設立の趣旨を、とくに地域の小児歯科医（開業医や勤務医など）が中心となって、自ら活動できるような形態を確立し、大学関係者はその裏方を務めようとの、合意が形成されました。今や、当時の意図そのままに運営されていることは、喜ばしい限りです。ただ、あえて地方会の存立意義と小児歯科学会総会との関係について、改めて考えてみる必要があるのではないかとと思います。

小児歯科学会の役割は多岐にわたっておりますが、中でも重要な要素は、人材の育成と最新の学術情報の交換であるように思います。今の学会が、1年に1回の総会だけで、両方の機能を果たすことには少々無理なところがあるように思えます。それに、会員の経済的な負担などを考えてみますと、全国学会とそのミニ判のような地方会の両方に出席するのは、効率が悪いのではないかと危惧しております。

その解決策として、年に2回の全国大会に、再編するのも一つの手立てではないかと考え、提案してみたいと思います。一つめの全国大会は、会場等は大学の施設などを利用して、経費を抑え、その上で若い世代に十分に討論できる場を作るのです。一方で、二つ目の全国大会は、開催場所は人目を引く立派な会場で、プログラムは教育的内容を重視して、開業医の先生方が、大いに最新の学術上を学べる場、情報交換の場とするのです。

このようにすることで、大学関係者と臨床医の両者が、各々の立場で満足できるような総会運営ができるように思うのですが、いかがでしょうか。